

# フィリピン国内フェリー 2GO トラベル

## 元ブルーダイヤモンド 乗船記

近藤貴行

2026年1月に、フィリピンのマニラ～ネグロス島にある人口60万人の町バコロドを、元ダイヤモンドフェリーのブルーダイヤモンド（1990年来島どく建造）である、2GO トラベルの

セント ミッキエル ザ エンジェル（=聖大天使ミカエル）乗船した。

フィリピンには、たくさんの日本の中古フェリーが活躍している。かつてはフィリピンはいくつかの船会社に分かれていたが、長距離航路は今では2GO トラベルに集約されているようである。

- ① つくし（2003年三菱建造）→現船名 2GO Masagana
- ② オレンジ8（1999年今治造船）→2GO Masigla
- ③ ブルーダイヤモンド（1990年）→St Michael the Archangel
- ④ やまと（2003年三菱）→2GO Maligaya
- ⑤ フェリーふくおか2（2002年三菱）→2GO Masinaga
- ⑥ フェリーきょうと2（2002年三菱）→2GO Masikap

その他に3隻ほど日本の中古フェリーが在籍しているようだ。

ただ全て瀬戸内海で活躍していた船のため、フィンスタビライザーはなく揺れるだろう。同社のFacebookには、タイムリーにお知らせが掲示されるが、12月にはかなり天候不良で欠航や遅延が見られた。

フィリピンでのフェリー乗船計画を立てるにあたって、予約は HP とアプリから出来るが船名は HP からしか確認できないようだ。

今航は、21 時 30 分出港、途中二つの港に寄り翌々10 時 30 分着の 2 泊 3 日の 37 時間の航海となる。また途中の寄港地は、便によって異なるようだ。

## ① 予約・乗船

HP からネット予約。

料金は 12 日前の予約で、スイートで 24800 円。なおスイートは、日々料金 上がっていた。

ターミナルは、マニラノースポーツ。マニラの観光名所のサンチャゴ要塞から大通り沿いに 2km ほどそのため、歩いて行ける距離だがターミナルの近くはスラム街のため、日本人にはきつい。出港 3~4 時間前にはターミナルに来るよう、とのことだったが、15 時半に到着するとすでに 100 人ほど待合室にいた。船の入港は当日 13 時ごろだったようだ。しかし早くも出港 4 時間半前の 17 時から乗船が始まった。

乗船は舷側のギャングウェイで階段を登る。車椅子の乗客もクルーが 4 人がかりで抱えて上がっていた。乗船口自体はブルーダイヤモンドと同じ出入口（ただし車両甲板と同じデッキ）を使っているので、かなりの高さになる。また船体後方の車両甲板内に増築された客室部へもギャングウェイがあった。さらに隣りの岸壁に入港してきた元オレンジ 8 も、車両甲板に新設しているようだ。

船は車でやってきたパイロットを乗せるとすぐに出港、定刻より 5 分遅れだつた。岸壁には入船で着岸していたが、タグボートを使いすぐに回頭して港を離れ、パイロットはタグで下船していった。また元オレンジ 8 は、入港前に回頭して出船で着岸、こちらもタグボートを使用。

## ② 車両甲板

ランプは右舷後方のみの使用。同様にオレンジ 8 も右舷後方のみの使用で、ともに前方のランプは使っていなかった。荷役風景を見ていた限り、2GO のコンテ

ナしか見なかつた。乗船客は車は持ち込めないが、トラックも見かけなかつた。

### ③ 旅客設備の配置

旅客設備自体は、日本時代 5、4、3 階→現在 A、B、C デッキの 3 層なのは同じである。3 階については車両甲板の前方がドライバーズルームだったのが、ツーリスト客室になり、さらに後部車両甲板内に客室が増築されている。デッキに増築された部分としては、後部に 2 階建ての小さなイベントホールが設けられている。ただしイベントホールは使われておらず、倉庫兼多客期に雑魚寝スペースになっているようだ。

船内の配置は日本時代を踏襲している。2 等和室はすべて 2 段ベッドになり、2 等寝台は日本時代はかなり小割りの部屋に分かれていたが大部屋に変わっているブルーダイヤモンドは当時としては珍しく一人部屋があったが、現在は無い。

また、椅子席もあるが、今航では最終日の日中 4 時間ほどの航海のイロイロ～バコロドでのみ使われていた。

元日本船だった痕跡はほぼ無く日本語は、車両甲板への撤去済みのエレベーターが、操作スイッチのみ残っているのが唯一だった。

### ④ 乗組員

ホテル部門で 37 名乗船していてキャビンは下の階にあるとのことだったが、もっと多いそうだ。サービスクルーは、女性が多い。また甲板員は、「PTC shipmanagement inc」と書かれたつなぎを着ていたので、運航は別会社かも知れない。船内の清掃は乗組員が行なっていた。フィリピンなので、英語が通じるので助かる。また客船のフィリピンクルーと同じく、サービス精神は高いので、快適に過ごせる。

### ⑤ キャビン

今回はスイートを選んだが、乗船後フロント前でウェルカムドリンクの後キャビンまで案内された。乗船まで身分証明書の代わりとしてパスポートの提示はなかったが、キャビンの鍵の保証としてパスポートを預けた。またツーリストやメガバリューのベッドには寝具が無いため、ブランケット等の貸し出しがあるがIDカード等を預ける必要がある。

今回の部屋はかつての特別室の位置にあったが、内装はすべて変わっていた。天井もパネル材ではなくすべて塗り込まれているようで、点検口もまったく見当たらない。他のキャビンも間取りを含めてすべて変わっているように思える。スイートの備品としては、有料のミニバーの他はバスタオルとシャンプー、石けん、綿棒のみ。シャワー・トイレルームは、排水管から来るのか、かかなり臭い。またエアコンの調整が出来ず、夜はかなり寒く感じた。昼間はすぐ上で作業をしていて、サンダーで何か削るような音がずいぶん聞こえてきた。

またスイートにはコンセントが一つあったが、ほとんどの部屋では充電出来ないため、チャージステーションがあったが、10分で5ペソ（1ペソ=2.7円）。

#### ⑥メンテナンス

内装については、かなりきれいに保たれている。掃除もよくやっていたし、ホテル部門のクルーが外部もほうきで、はいていた。日本人から見ても不衛生を感じることは無いだろう。

一方外部デッキは、手すりなどかなりサビが目立つ。救命いかだや救助ボートも、いかにもくたびれてる感が否めない。一応2025年に点検しました、といった表示は目立つのだが。2GOトラベルは、2013年に元フェリーすみよしが貨物船と衝突して沈没して以来大きな事故は聞いていないが、日本人から見ると少し物足りなく感じる。

## ⑦ 外部デッキ

東南アジアにありがちだが、このフェリーも船内はエアコンが効き過ぎて寒いので、外に出ると1月といえども日陰でないと暑い。また外部デッキには、腰を降ろすところは無い。

## ⑧ レストラン

スイートは乗船初日の夕食以外は、食事が付いていた。一般的なレストランでは無く、4人掛けテーブルが10組あるホライゾンカフェにて提供される。スタッフが2人いて、テーブルにサーブしてくれるのだが、食事の内容にはいかにもフィリピン人が日常使うような食堂レベルである。残念なのは、毎食2時間の営業時間だったのだが、いつも終わりに行くとおかずが冷めていたことでさすがにこれは美味しくなかった。クルーは髪の毛が飛ばないようネットを被るなど衛生面に気を配り、コップの水が減ったら注ぎに来てくれるなど、サービスはそれなりだつたから、残念なところだ。

初日の夕食は一般的なレストランを使用したが、日本時代のカフェテリア方式だった頃と同じである。ただし席数140脚ほどと減っている。ただし料金が高めだからか利用している人は少ない。

## ⑨ カフェ、ラウンジ

カフェは、カフェテリア方式のレストランの1画にあったが、アルコールを注文している人は、見かけなかった。

ブルーダイヤモンド時代には、船内後部にラウンジ マーメイドクラブという小さなステージがあったが、そこは客室になっていた。その代わりにレストランの一画にステージが設けられていた。マニラの出港風景を見て22時ごろ通りかかると男女4人グループで歌を歌っていた。曲はすべて客のリクエストばかりで、歌え

ない曲もあったが、歌詞もなしで何曲歌えるのか驚くばかりだ。目ざとく私にフレピン人か？と、聞いてくるなどサービス精神もおう盛なグループだった。すべて英語の曲だったからずっと聞いていたが、0時になったので部屋に戻った。二日目は、20時30分に始まり、休みもまったく取らずステージが終わったのは0時30分、タフである。

ただしブルーダイヤモンドのレストランは個室ではなく、船内を前後を通り抜けようとすると、レストランを通る必要がある構造だ。客室によってはかなりうるさい。日本のように、22時以降は他のお客様のご迷惑にならないようお静かに願います、など無縫の世界である。また相部屋も消灯はなかったようだ。

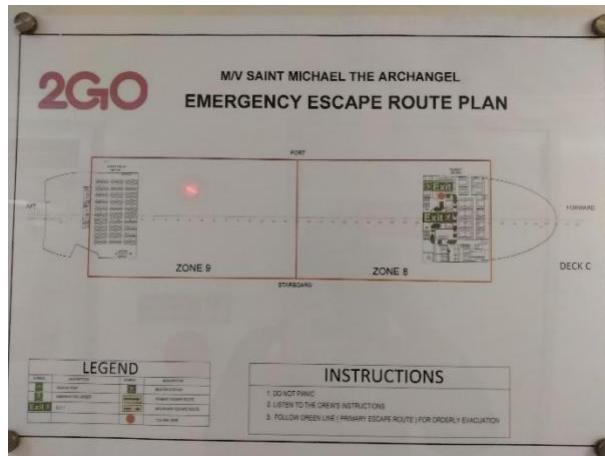
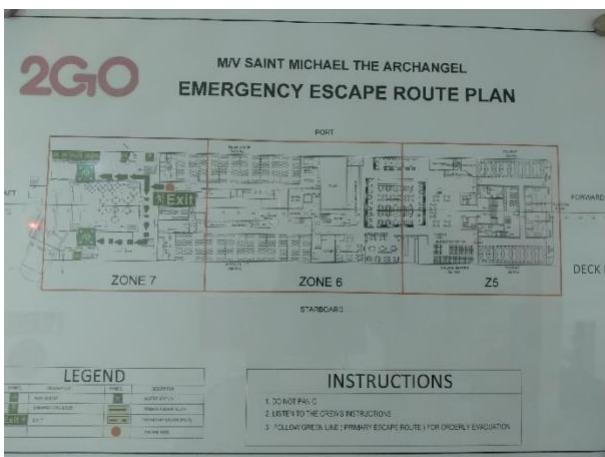
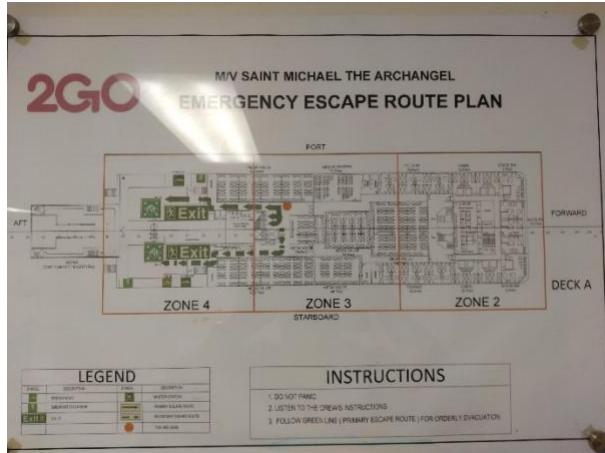
昼間は、レストランのステージの横にあるカラオケをやっていて、静かに食事をする雰囲気はない。国民性の違いだろう。

#### ⑩ ショップ

土産やおもちゃなど売っている店がフロント横にあったが、船ファンが欲しがる品はなかった。またジュース、カップラーメン、スナック類、日用品などを売っている店があった。缶コーラで、90ペソと高い。

#### ⑪ 航海

キャビンは船首だったが、揺れも感じることなく快適だった。二日目に朝7時に目を覚ますと、バタンガスに入港していた。まわりは歩いて行けるような港ではない。コンテナを積み込んで、9時半にタグに引かれ出港。最終日は、朝6時半に起きると、ちょうどイロイロ港を出港するところだった。下船1時間前にはバスポートを持ってルームキーの回収に来た。最終バコロドには5分遅れで到着、10分ほどで下船。なかなか楽しめた37時間の航海だった。

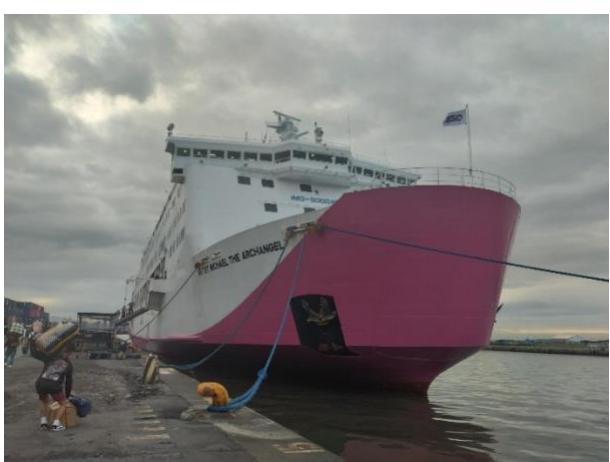
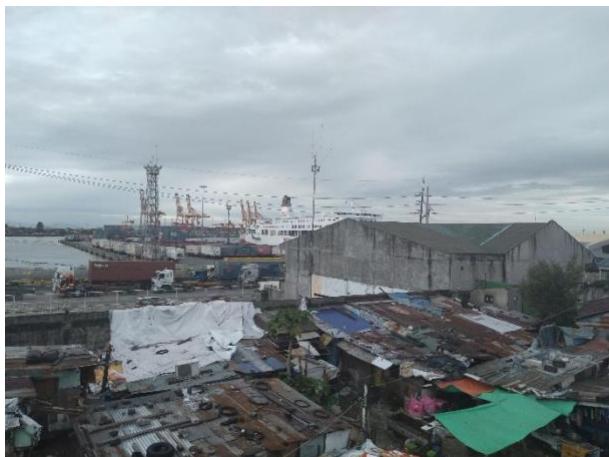
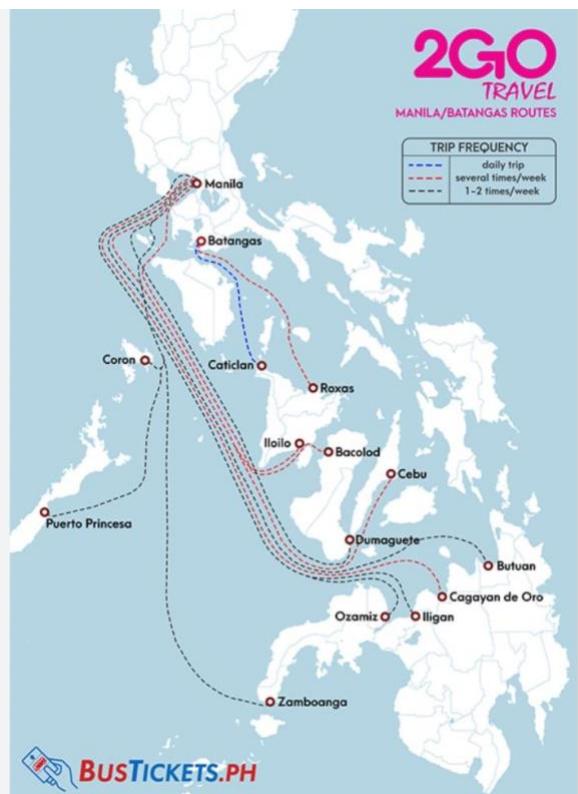


左側 現在 右側 ダイヤモンドフェリー時代

定員はデッキプランより、スイート 16、キャビン 24、ツーリスト 268、

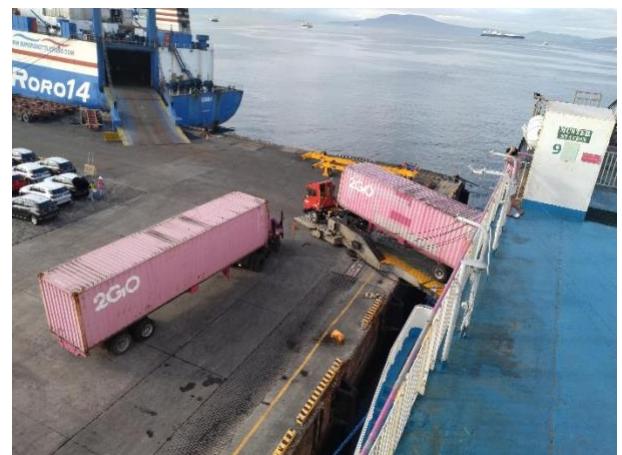
メガバリュー773、椅子席 152、スーパーバリュー240（車両甲板を仕切り使用）

計 1473 人



今航は、マニラ～バタンガス～イロイロ～バコロドだった。

上記写真は、マニラ港にて。

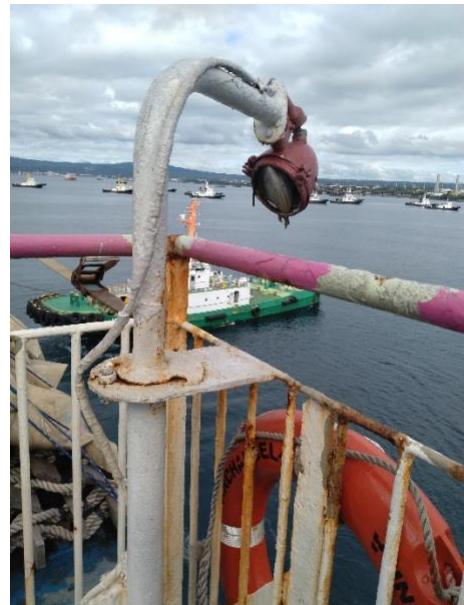


上段 マニラ港に入港してきた元オレンジ 8

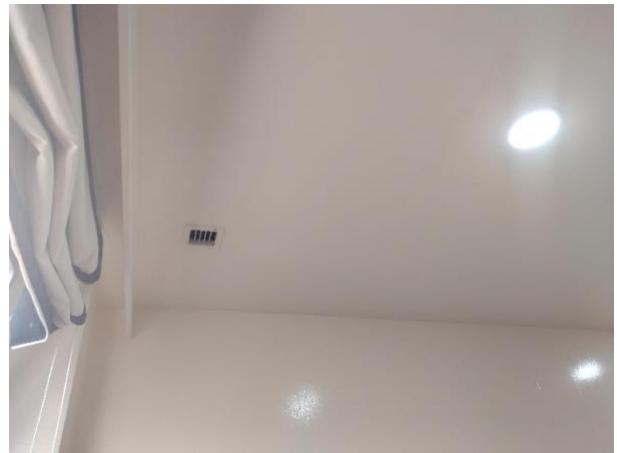
中段 バタンガス港

下段 最終バコロド港

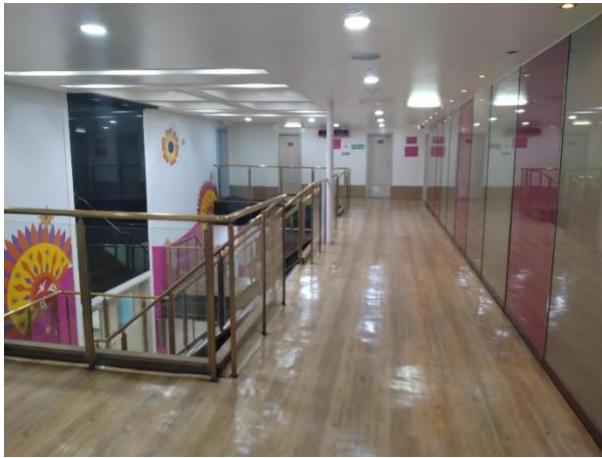
下段右写真のコンテナの後ろの開口部は、最も安いスーパーバリュ－。直接外気が入るところに2段ベッドが並び日本人には無理だ。



外部デッキは、ペンキはひたすら重ね塗り。



以上 6 枚 A デッキ スイートルーム。日本時代はバスがあったようだが、シャワーのみ。



ITEMS	RENTAL FEE	LOST/DAMAGED FEE
Bed sheet + Pillow with Case	80.00	-
Fleece Blanket	70.00	400.00
Bath Towel	60.00	300.00
Bed sheet	50.00	350.00
Pillow with Cover	45.00	-
Fitted sheet	-	350.00
Pillowcase	-	150.00



Philhealth  
Pag-ibig  
SSS  
Voters  
Postal ID  
Passport  
SRB/SID  
School ID  
Company ID (w/ valid date)

Drivers License  
National ID  
PRC  
PWD/Senior  
UMID ID  
GSIS

以上 6 枚 A デッキ 上段右 椅子席

中段左 メガバリュー 寝具はないのでレンタル



以上 6 枚 B デッキ 上段右 レストランでカラオケ中。

下段右 ツーリスト



上段 2 枚 一般レストラン。右写真はこれにアイスコーヒーを付けて 450 ペソ。

中段下段 スイート客に付いていたホライゾンカフェの食事。朝食、昼食、夕食同じような内容。



上段左 アイスコーヒー140ペソ、右 コーラ90ペソ（コンビニの倍）

下段左 陸ではマクドナルドで、ハンバーガーよりも安いライス+チキン+ドリンクのお得なセットで99ペソ（約270円）だから、船内はかなり割高と言える。

下段右 レストランでのステージの様子